

かながわ障害者支援事業者ネットワークと親の会の懇談会議事録

文責：「親の会・事業者ネット懇談会事務局」

日時 平成 17 年 12 月 7 日(水)10 時 10 分～12 時 00 分まで

場所 川崎市中小企業婦人会館 5 階第四会議室にて

- 団体名
- ・ かながわ障害者支援事業者ネットワークより(13 名)
 - ・ 川崎市心身障害者地域福祉協会より(3 名)
 - ・ 川崎市肢体不自由児者父母の会連合会より(4 名)
 - ・ 日本自閉症協会川崎支部(くさぶえの会)より(1 名)
 - ・ 川崎市精神障害者家族会連合会より(2 名)
 - ・ 川崎市重症心身障害児者を守る会より(1 名)

主な懇談会の内容

司会及び進行 かながわ障害者支援事業者ネットワーク 山崎さん

本日の配布資料の確認がある。

- 川崎市心身障害者地域福祉協会とかながわ障害者支援事業者ネットワークとの意見交換会のレジュメ
- 川崎市の「親の会」と居宅派遣事業者の懇談会
- 障害者自立支援法の施行に向けた当面のスケジュール(主なもの)
- 資料 「行動援護」判断基準:新旧対照表
- 10 月 6 日全国会議及びヘルプデスクへ提出された質問事項(制度改正関係)について
- 福祉有償運送及び過疎地有償運送に係る道路運送法第 80 条第 1 項による許可の取り扱いについて

司会者の山崎さんより、配布しました資料の全てを協議することは時間的にも無理ですので、協議出来ない部分につきましては持ち帰りまして、良くご覧頂ければと思います。また、懇談会を開催した目的は、当事者(親の会)と障害者居宅派遣事業者との意見交流を通して、それぞれの立場で問題点を認識した中で共通の問題を整理し、その問題解決のために互いに協力していきたいと思っています。

まずは、本日出席されました方の自己紹介を順番にお願いします。2～3 人後から見えましたが、一言の方や多少の思いを入れての自己紹介がありました。

次に、地福協の並木さんより、初めて参加された方がいらっしゃるの、11 月 11 日(金)「ちどり」で開催した最初の会合の内容を簡単に説明がある。自己紹介から始まり、障害者自立支援法が成立したことから、変更されることが予測される移動介護サービスで、個々のサービスからグループサービスになった場合、社会資源の有効活用(共通認識の部分)を検討できないか。

更に、事業者と利用者の負担料の増減についての問題を、今後のこの懇談会の在り方を含めて協議した。結果として、当面障害者居宅派遣事業者(略して「かなネット」と親の会で会合を持つこととでまとめ、次回の会合を 12 月 7 日(水)川崎市中小企業婦人会館で開催することが決まったと、経過内容の説明がある。

次に、司会者の山崎さんより、配布しました資料に基づきかなネットの紹介と組織としての取り組み内容の説明があり、事業者としての問題点、障害者自立支援法施行に向けてのスケジュールと、行動援護の判断基準の新旧対照に触れ、ヘルパーの研修時間の対応や、研修を事業者持ちで行う現行体制の事業者の負担軽減について、ヘルパーの資質の問題、外出支援の福祉有償運送こと等が話される。

福祉有償運送運営協議会の内容については、地福協の並木さんより、第三回までの福祉有償運送運営協議会の協議された主な内容が話される。

続いて、親の会の各参加者より発言があり、事業者との懇談で、精神障害関係者より理解してくれるヘルパーの要請、対応の仕方の難しさ、希望する利用者が多いこと。研修を行わないとヘルパーとして対応が出来ない。年 2 回の研修が川崎市で用意されるが、事業者としてヘルパーを派遣するにあたって、研修内容が実際に役立たなかったりして、送り出すのに不安がある。事業者としても法的に義務付けた研修を保障してくれるなど、もっと回数を増やし内容の充実した研修をやってほしい。

現在 2 事業者が、精神障害者のヘルパーを行っている。共同でやることについても、なかなか難しさがある。

重症心身障害関係者より、医療的ケアのことが一番心配です。24 時間、親が面倒を見ているが、そのことを多くの方に知ってもらいたい。包括支援について、もっと問題解決をどのようにすればよいか検討していきたい。

自閉症障害関係者より、ヘルパーさんも個々の対応で、何回も利用した中からお願いさせてもらいます。自閉症の障害者に対応するヘルパーが少ない。こだわりが次々に移っていき、利用者の状況が何時も同じでないことを知り、親とのコミュニケーションを取る必要がある。危険は常に感じます。

肢体不自由障害の関係者より、ヘルパーの利用が割りと少ない。福祉キャブや市バスの利用について、どんどん利用することで周りを慣れさせる必要がある。

知的障害の関係者より、うまくいっている場合とそうでない場合とがある。

おおよそこのような話が出たところで時間が大分消化し、司会者より会の持ち方について、アンケート用紙を作成しそこに出たものを活かす方法を考えたい。議事録を作成とアンケート用紙を同封送付し、今回は、アンケートを 2 月に回収した内容から方向性を見出したい。要望をまとめる、事業者の自立体制の確立、事業者に対する要望。サービスと利用料の問題、事業者の経営上の問題(キャンセルの件)もある。

これからも事業者と利用者の誤解を解いたり、理解や協力の場として会合を持ちたい。1 月末に本日の報告書とアンケート用紙を発送します。次回の会議を、2 月半ばに開催する予定をします。